

1. 越水時の写真 → 別紙参照
 - ・河川事務所として確認している時刻
 - 9月10日6時過ぎ
 - ・越水がなくなった(確認されなくなった)時刻
 - 避難していたので、現地での確認はしていないが、9月11日の未明には越水がなくなっていたと思われる。
2. 越水がなくなり、応急処理(土のう積)開始前の写真(現場)
 - 別紙参照
3. 越水幅(越水延水長)はどの程度なのか
 - 約200m
4. 現在、大型土のう(トン袋)3段の俵積み状態と聞いている。(写真確認)このもので今後の水量に耐えられるのか。何かを基準に作られたのか、住民は大変心配している。
 - 今回の出水を踏まえ、大型土のうの再設置にあたっては、
 - ① 土のう設置基盤の砂を土に置き換えたこと。
 - ② 大型土のう積みの高さは、今回の出水で記録された最高水位を考慮し3段積みとしていること。(大型土のう天端高YP+22.2m)
 - ③ 新たに遮水シートで全面を覆うことにより、土のう間の水密生等を確保したこと。から応急対策としては、構造的に従前より強固な対策となっている。(絶対安心とは言えないまでも応急対策として機能は有している。今後、出来るだけ早く本堤防の完成に向け、努力する。)
5. 今後は堤防を作る計画でしょうか。築堤出来るまでの処理は、現在の3段積の積み直しあるいは対応はするのか
 - 現在の土のう積は、応急対策であり、本堤防の工事を出来るだけ早く着手したい。関係者の協力をお願いしたい。
6. 新聞などでは、越水の高さは、1.5m~1.7mなどと書かれたものがあるが、河川事務所、国交省では実測しているのか、又、高さはどの位と見ているのか
 - 実測値はないが、上下流の水位の痕跡などから、越水の高さは、約70cm程度と判断している。
7. 若宮戸地区において、住まいの庭、あるいは山側の砂地などに陥没状態の穴がいくつも見られる。これは何か川水との関係があると思うが、今後も予想できるか
 - ※上記の穴の件は、現在、市側(都市建設部)にて対応している。
 - 氾濫した水流により砂質系の土砂が洗われ落堀を形成したものと想定している。
8. 更に詳細な越水についての資料がありましたら提出していただき、地域住民が今後安心して生活出来るよう説明をお願い致します。私も又皆さまにお伝え申し上げます。

以上のような件について、発生間もない時期からお願いをしていますが(口頭)、私の手元には、現在の俵積み状態仮堤防の写真一枚のみです。9月15日本部対策会議中にもお願いしました。大変混乱の中、住民の皆さんが大変心配しております。宜しくお願い申し上げます。